ぽつりぽつりと　大堰川に　灯かりがともる
にぎわいが　どんどん　近づいてきた
今年もまた　夜空に〝花〟が開く
大きくて　力強くて　まぶしくて
「すごい、すごい」と手をたたく人がいる
「今年も見れた」と目を細める人がいる
「無事にあがった」と胸をなでおろす人がいる
空を見上げる人々の顔が
ぱぁっと明るく照らされる　ふるさとの　夜

殉難碑

62年。その歩み

戦後間もない昭和22年、戦没者の慰霊と、まちの元気を取り戻そうと、大堰橋上流の河原で花火が打ち上げられました。以来62年間、毎年打ち上げられています。

昭和28年と35年、台風で大堰川の堤防が決壊し、家屋2階まで浸水する大きな水害に見舞われました。昭和35年8月29日の台風16号被害では、救援に駆け付けた自衛隊員のうち3人が殉職、住民2人の命が失われました。大堰橋西詰には殉難碑が建立され、毎年花火大会に先立って法要が営まれます。

平成7年からは、町民の協賛による花火が「町民の花火」として打ち上げられるようになりました。

そして平成18年、合併により南丹市となったことから、「八木町花火大会」から「南丹市やぎの花火大会」と名称を変更。

陰日なたで花火大会を支え続けてきた人々の努力のたまものにより、京阪神一円に名の知れた花火になりました。大堰川に浮かぶ灯ろうの淡い揺らめきと、夜空一面に描かれる花火、そして川面に映るもう一つの花火に大勢の観衆が魅了されます。